

【令和2年度予算額 17,871百万円（16,253百万円）】
 【令和元年度補正予算 6,705百万円】

環境省

世界水準の「ナショナルパーク」を実現し、国立公園等の保護と利用の好循環により、地域活性化を図ります。

1. 事業目的

- ① 日本の国立公園のブランドイメージを確立し、インバウンドの誘客を促進
- ② インバウンド対策を通じ、外国人とともに日本人も国立公園や国民公園の魅力を満喫できるようにする
- ③ 利用者数だけでなく、滞在時間を延ばし消費単価や満足度の向上するための施策を実施し、地域に経済効果をもたらし、一層の自然環境の保全への再投資を促進

2. 事業内容

* : 国際観光旅客税を活用した事業

平成28年3月に政府（議長：内閣総理大臣）がとりまとめた「明日の日本を支える観光ビジョン」の柱の一つとして国立公園が位置づけられ、**2020年に国立公園訪日外国人利用者数を年間1000万人**とする目標を掲げている。**2018年の当該利用者数は約694万人**となり、**利用者数の更なる増加と受入環境整備の強化、満足度の向上**に向け、国立公園を磨きあげる以下の取組を実施する。合わせて、国民公園の魅力向上を図る。

- ・ **滞在環境の上質化*** : 利用拠点の滞在環境の上質化、多言語解説の整備・充実
- ・ **魅力あるコンテンツづくり*** : アクティビティ等と組み合わせたグラブピッキング、国立公園ならではの「食」やナイトタイムを生かしたツアー等の造成、野生動物観光の促進。ビジターセンターのアウトドア対応機能強化とデジタル技術を活用した展示促進
- ・ **基盤的な利用施設の整備／長寿命化** : 登山道の再整備、キャンプ場リニューアル等
- ・ **受入環境の整備** : ガイド等の人材育成、利用者負担による保全の仕組みづくり等
- ・ **海外への情報発信** : 旅行博等への出展、JNTOとの連携によるプロモーション強化*等
- ・ **新宿御苑や京都御苑の魅力向上*** : 歴史的遺構の整備や体験型コンテンツの造成等

3. 事業スキーム

- 事業形態 請負事業／補助事業／交付金
- 請負先 民間事業者・団体／都道府県・市町村
- 実施期間 平成28年度～

4. 事業イメージ



廃屋撤去跡地の新たな民間事業導入、景観整備



くろさきテラス (仮)



(イメージ) デジタル展示
デジタル技術の活用



グラブピッキングや「食」、文化・歴史等の国立公園の資源活用によるコンテンツづくり



Uni-voiceコードによる多言語解説



アドベンチャートラベル層に向けたキャンペーン展開 (JNTOとの連携)



新宿御苑におけるバックヤードツアーの造成

お問合せ先： 環境省自然環境局総務課：03-5521-8672 / 国立公園課：03-5521-8277 / 国立公園利用推進室：03-5521-8271
 / 自然環境整備課：03-5521-8280 / 野生生物課：03-5521-8282

世界水準の「ナショナルパーク」の候補として先行8公園を選定 (H28.7)

国際観光旅客税の本格活用 (R1年度～)

民間活用によるサービスの向上、受け入れ環境の整備

利用環境の整備

＜先行8公園の主要利用拠点・動線上の直轄施設では概ね完了＞

- 案内解説板、ビジターセンター展示解説の多言語化 (22箇所、整備率86%)
- ビジターセンター等の改修/新築 (16箇所、整備率88%)、Wi-Fi整備 (17箇所、整備率100%)
- トイレ洋式化 (22箇所、整備率92%)、歩道 (13箇所、整備率87%) 等 ※整備率は8公園直轄 (R1整備中も含む)
- JNTOサイト内に国立公園サイト (英語) を設置。各種メディア等による認知向上。

体験型コンテンツの磨き上げ・受け入れ体制の強化

- 国立公園コンテンツ集 (日・英) を17公園に拡充。185コンテンツ、44コースを掲載。OTA上で207件の予約 (2月末時点)
- 日光で研修参加者が中心となり新たなガイド組織を設立 (R2.3末予定)
- 8+3公園のビジターセンターに予約機能を備えたデジタルサイネージ等を設置し、アクティビティ等の情報を一元的に多言語で提供 (R2.3末予定)



景観の改善

- 阿寒湖畔にて地域で統一されたアイヌ文様を使用し、また、隣接する建物とデザインが調和するよう、遊覧船乗り場の外観修景を実施。 (R2.2)
- 川湯温泉 (阿寒摩周) において、廃屋撤去を実施中 (R1～)



利用者負担による保全の仕組みづくり

- 妙高山 (妙高戸隠) で、ライチョウ保全と登山道の維持管理を目的とした協力の収受を実施 (R1.7～10)



多様な宿泊サービスの提供

- 2020年5月に日光、2021年に霧島に上質な宿泊施設が開業予定。
- 民間事業者と連携しグランピングを実施 (阿寒摩周、十和田八幡平、大山隠岐等)



ビジターセンター等公共施設の民間開放

- 大山 (大山隠岐) にて、設計から施工・運営まで民間に委ねるキャンプ場の再整備
- 日光湯元ビジターセンターに新しく整備した「くつろぎスペース」に地元の事業者が試験的に出店し、飲食物を提供 (R1.12)



訪日外国人の国立公園利用者数
490万人 (2015年)
→694万人 (2018年)

訪日外国人の国立公園の満足度 96.5%
リピーター率 14%

国内外への強力な情報発信

民間事業者等との連携

- 「国立公園オフィシャルパートナー」が計75社に達する (R1.7) (交通系、旅行会社、DMO等)。取組例) 2019年上期に国立公園をテーマにした旅行キャンペーンを実施
- 九州中部・南部の4地方銀行と環境省で連携協定締結 (R2.1)



情報サイト・SNS・海外メディア等による発信

- JNTOサイト内に、国立公園サイト (環境省管理) を設置し、OTAと連携し予約まで一気通貫で可能に。
- 広告・バナー等によるデジタルマーケティングを実施し、国立公園サイトへ誘引
- BBC等の海外メディアを活用した記事掲載による認知向上



国内外の旅行博等での発信

- ツーリズムEXPOジャパンへの出展による情報発信、海外バイヤー商談会でのビジネスマッチングを支援



管理事務所の体制強化

- 伊勢志摩と吉野熊野で国立公園管理事務所を新設 (R1年度)
- 民間企業経験者等を「利用企画官」として採用・配置

